



## 通常訪問研修を終えて⑥ 立山小学校

### 研究主題：主体的に追究し、共に学び合う子供の育成

本校では今年度、子供たちが主体となり、互いに学び合うことを通して、よりよい考えをつくり上げるための手立てはどうあればよいかについて研修を進めています。

通常訪問研修では、その手立てと子供の変容について研修しました。協議、指導助言により明らかになったことや残された課題の一部を紹介します。

#### <明らかになったこと>

- ・国語科の説明文の学習では、叙述から想像し動作化することによって、「すばやく」「もぐる」という言葉の意味を捉えやすくなり、書かれている事柄を実感を伴って読み取ることができた。
- ・音楽科の音楽づくりでは、ねらいを音色に絞り、自他の演奏を聴く場を設定したことで、子供たちが思考しやすくなり、音の強弱にも目を向けることにつながった。
- ・特別の教科 道徳では、範読の際に電子黒板に挿絵を提示したり、場面絵や登場人物の絵を板書に位置付けたりすることで主人公の心情に向かいやすくなった。
- ・国語科では「どんなごんぎつね」という視点に絞り、友達の考えや根拠となる叙述等を聞き合うことで、場面ごとの主人公の気持ちの変化を捉えることができた。
- ・算数科では、自分の考えを発表する際に黒板の図形に線だけ書き込ませ、求め方は他の子供に考えさせた。そうしたことで意欲が高まり、自然と追体験の場ともなった。また、互いの考えの理解につながり、きまりについての気付きにもなった。
- ・社会科で時代の違う二つの想像図を比較させることで、相違点に着目し、生活の様子に想像を膨らませながら、課題について自ら考えようとする姿につながった。

#### <残された課題>

- ・教師と発言する子供の1対1にならないよう、教師が話し過ぎず、子供同士の意見をつなぐ言葉かけをすることで、互いの考えや思いを聴き合う話合いを目指す。
- ・単元構想では、単元のめあてを提示し、ゴールを一つに絞らず多様な考え方や学びの生きる授業展開を工夫し、個別最適な学びを保障していくようにする。
- ・振り返りで自分の学びを再確認できるように、場や視点の設定を工夫することで、自己調整しながら主体的に学習する子供を目指す。

今後の研究の方向性が明確になる研修となりました。

文責 教務主任 岩本 敏和

